

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-115	高等学校	商業	財務会計 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
7 実教	商業 007-911	新財務会計 I 新訂版		

1. 編修の基本方針

- 基礎項目から応用項目へと段階を追って学習できるよう構成することで、幅広い知識や技術を確実に習得できるよう配慮する。
- 本文は例題を中心とした展開とし、段階的に練習問題を配置することで、無理なく技術の定着をはかれ、自ら学ぶ主体的な学習や系統的な反復学習もできるよう配慮する。
- 学習要素や例題の解説などではイラストや図解を用い、学習者が具体的にイメージしやすいよう配慮する。
- 実務やその歴史に関わる教材を積極的に取り入れ、職業及び生活との関連に配慮する。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
見返し、口絵	職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、企業のグループ化と連結財務諸表の開示について、実際の企業や団体のイメージ写真を交えて扱った（第2号）。	①～②頁
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点、また創造性を培い、自主及び自律の精神を養うという観点から、複数の箇所や章にまたがって展開されている学習要素を本文とは別の視点からまとめた教材や、公式・計算式の一覧、勘定科目・表示項目の一覧などを扱った（第1号、第2号）。	③～⑥頁 ⑩～⑫頁
	我が国の伝統と文化を尊重するという観点、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うという観点から、自国も含めた世界的な簿記・会計の歴史を扱った（第5号）。	⑦～⑨頁
本書の使い方	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、教科書の構成と学習の流れを示した（第1号）。	2～3頁
まえがき	個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うという観点、また、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、本書の学習を通じて、学習者が社会で活躍することについての期待を述べている（第2号、第3号）。	8頁12～17行目

第1編	創造性を培い，自主及び自律の精神を養うとともに，職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養うという観点，また，正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，主体的に社会の形成に参画するという観点から，編とびらのテーマを若い男女が起業し，周囲と関わりながら会社を大きくし，自身も成長していくというストーリーに設定した。生命を尊び，自然を大切にするという観点から，植物が成長していく様子も描いた（第2号，第3号，第4号）。	9頁
	財務会計の基礎と株式会社制度の特徴についての幅広い知識と教養を取り上げた（第1号）。	10～28頁
	我が国の伝統と文化を尊重するという観点，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うという観点から，自国も含めた世界的な会計の歴史を扱った（第5号）。	17～19頁
	幅広い知識と教養を身に付けるという観点，また，職業及び生活との関連を重視するという観点から，会計学の分野全般に関する内容や，より実務に即した内容などを広く扱う囲み記事「会計コラム」を設けた（第1号，第2号）。 さらに，伝統と文化を尊重するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うという観点から，この「会計コラム」において企業会計原則や国際会計基準について扱った（第5号）。	28頁15～29行目
第2編	創造性を培い，自主及び自律の精神を養うとともに，職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養うという観点，また，正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，主体的に社会の形成に参画するという観点から，編とびらのテーマを若い男女が起業し，周囲と関わりながら会社を大きくし，自身も成長していくというストーリーに設定した。生命を尊び，自然を大切にするという観点から，植物が成長していく様子も描いた（第2号，第3号，第4号）。	29頁
	貸借対照表とそれを構成する項目の会計処理に関する幅広い知識と教養を取り上げた（第1号）。	30～154頁
	幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養うという観点から，囲み記事「特別講義」を設け，本文の内容を別の角度から解説することなどにより，さらに幅広く発展的な内容にも対応することができるよう配慮した（第1号）。	41頁4～12行目 72頁1～22行目 76頁7～17行目 77頁7～15行目 81頁7～17行目 103頁14～21行目 114頁1～5行目

	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点、また、創造性を培い、職業及び生活との関連を重視するという観点から、会計学の分野全般に関する内容や、より実務に即した内容などを広く扱う囲み記事「会計コラム」を設けた（第1号、第2号）。</p> <p>さらに、伝統と文化を尊重するという観点から、この「会計コラム」において歴史的な日本の会計の変化について扱った（第5号）。</p>	151頁8～20行目
第3編	<p>創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点、また、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画するという観点から、編とびらのテーマを若い男女が起業し、周囲と関わりながら会社を大きくし、自身も成長していくというストーリーに設定した。生命を尊び、自然を大切にするという観点から、植物が成長していく様子も描いた（第2号、第3号、第4号）。</p>	155頁
	<p>損益計算書とそれを構成する項目の会計処理に関する幅広い知識と教養を取り上げた（第1号）。</p>	156～198頁
	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、囲み記事「特別講義」を設け、本文の内容を別の角度から解説することなどにより、さらに幅広く発展的な内容にも対応することができるように配慮した（第1号）。</p>	182頁 193頁
第4編	<p>創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点、また、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画するという観点から、編とびらのテーマを若い男女が起業し、周囲と関わりながら会社を大きくし、自身も成長していくというストーリーに設定した。生命を尊び、自然を大切にするという観点から、植物が成長していく様子も描いた（第2号、第3号、第4号）。</p>	199頁
	<p>役務収益・役務原価、外貨建取引、税効果会計についての幅広い知識と教養を取り上げた（第1号）。</p>	200～222頁

第5編	創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点、また、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画するという観点から、編とびらのテーマを若い男女が起業し、周囲と関わりながら会社を大きくし、自身も成長していくというストーリーに設定した。生命を尊び、自然を大切にするという観点から、植物が成長していく様子も描いた（第2号、第3号、第4号）。	223頁
	財務諸表の活用についての幅広い知識と教養を取り上げた（第1号）。	224～248頁
	自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から、地域社会が「自然環境の保全」について企業に関心を持っている旨を、図中で示した（第4号）	224頁
	職業及び生活との関連を重視するという観点から、連結財務諸表の例および総合問題中の財務諸表について、実際にEDINETなどで入手する財務諸表に近い形式で示した（第2号）。	245～247頁
発展編	創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点、また、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画するという観点から、編とびらのテーマを若い男女が起業し、周囲と関わりながら会社を大きくし、自身も成長していくというストーリーに設定した。生命を尊び、自然を大切にするという観点から、植物が成長していく様子も描いた（第2号、第3号、第4号）。	249頁
	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、第5編に関連した発展的な学習内容を扱う「発展編」として独立させた（第1号）。	249～270頁
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、囲み記事「特別講義」を設け、本文の内容を別の角度から解説することなどにより、さらに幅広く発展的な内容にも対応することができるように配慮した（第1号）。	260頁1～17行目
総合演習	個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うという観点から、これまでの学習を総合して確認できる演習問題を設けた（第2号）。	271～275頁

ADVANCE	個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うという観点から、対話形式の文章や調べ学習を通じて積極的・能動的な学習ができる ADVANCE を設けた（第2号）。	276～282頁
	主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、インターネットを用いた財務諸表の閲覧について扱った（第3号）。	278～279頁
折り込み	職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、会社計算規則による財務諸表の例や架空の株式会社の決算に関する手続きと記帳の流れについて扱った（第2号）。	折り込み1～8

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 豊かな人間性、創造性を養うという観点から、全編カラーページとし、視覚的な学習効果をはかった。また、UDフォントを用いて、すべての学習者が使いやすいように配慮している。
- 外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うという観点から、国際的にも使われる重要用語については、英字表記を併記し、巻末に英語表記一覧表を設けた。
- 生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うという観点から、読みにくいと思われる用語や科目特有の専門用語についてはふりがなを併記した。また、代表的な読み方が二通り存在する用語については、用語の上下に二通りのふりがなを示した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-115	高等学校	商業	財務会計 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
7 実教	商業 007-911	新財務会計 I 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- (1) 本書は、「財務会計 I」を履修する学習者のために、財務諸表の基礎を理解し、適切な会計情報を提供でき、会計情報を効果的に活用するために必要な資質・能力を育成することを目的として編修した。この目的を効率よく達成できるようにするため、次のように体系的に構成してある。
- (a) 全体を「第 1 編 財務会計の基礎」, 「第 2 編 貸借対照表」, 「第 3 編 損益計算書」, 「第 4 編 その他の会計処理」, 「第 5 編 財務諸表の活用」の 5 編および「発展編 連結財務諸表の作成」を加えた計 6 編に分け、編ごとにステップをふみながら、まとまりのある学習ができるようにした。
- (b) 学習指導要領の内容「(2)会計処理」および「(3)財務諸表の作成」については、教材の内容と財務諸表の関連性を考慮し、「第 2 編 貸借対照表」, 「第 3 編 損益計算書」というように構成し、会計処理と財務諸表の構成要素の関係を示すことで、財務諸表の基礎を学習しやすくなるよう配慮した。その際、「(2)会計処理」のうち、履修する学習者にとって、発展的な学習内容を「第 4 編 その他の会計処理」で扱い、編ごとにステップを踏みながら、まとまりのある学習ができるようにした。
- (2) 本書では、本文中には「例題」、各章末には「基本問題」と「演習問題」の二段階の練習問題、必要に応じて編末に「総合問題」、さらに巻末には、二つの「総合演習」を設けた。これによって、個々の学習事項の確実な理解から、手続きの全体的な流れや各種財務諸表間の関係等の理解、そして、正確で迅速な技能の習得までを段階的に学習することができ、系統的な反復学習にもより対応できるよう配慮した。
- (3) 本書では、本文の内容を別の角度から解説するなど、さらに幅広く発展的な内容に対応する囲み記事「特別講義」を設け、学習者が本文の理解をより深められるよう配慮した。
- (4) 本書では、学習内容の実生活・実社会への関連付けや、なぜ学ぶのかという目的意識を明確にさせることを目的として、授業の話題作りにできるような囲み記事「会計コラム」を設け、他科目への橋渡しとしても使えるよう配慮した。
- (5) 本書では、対話形式や調べ学習を取り入れ、主体的・対話的な学びに配慮した「ADVANCE」を設けた。
- (6) 本書は以上のほかに、次のような配慮をして、学習の視覚的効果をはかった。
- (a) 大きな判型により、各財務諸表および帳簿類や図解を見やすくした。また、必要に応じて見開きで大きく図解を示し、流れなどがよりわかりやすくなるよう工夫した。
- (b) 全編カラーユニバーサルデザインを採用したカラーページとした。また、UD フォントを用いて、学習要素やその関連性がより分かりやすくなるように工夫した。
- (c) 本文の内容を助けるイラストや、キャラクターによる吹き出し解説を取り入れ、学習者が親しみをもてるようにした。

- (d) 章タイトルには本章のポイントを設け、該当の章で何を学ぶべきか、何ができるようになるべきかをはっきり認識できるようにした。また、適宜簡略化した貸借対照表および損益計算書を設け、該当の章で学ぶ会計処理が、どの区分に属しているのかを常に意識できるようにした。
- (e) 本文の奇数ページにインデックスを設け、学習者が今「どの段階」で「何を学んでいるか」をはっきり認識できるようにした。
- (f) 基礎的な内容である第1～4編、応用的内容である第5編および発展編について、それぞれ章タイトルなどのメインカラーを決め、見た目にも分かりやすくした。
- (g) 特集ページ（前後見返し含む）・折り込みでは、各編の代表的な教材、まとめとなる教材、興味を喚起する教材などをとりあげ、効果的な学習の一助となるよう工夫した。
- (7) 本書では二次元コードを用いて、学習者が本文のより深い理解と効果的な学習が行えるよう、次のようなコンテンツを用意した。
- (a) すべての例題の解説動画を用意し、本文でのつまづきをすぐに解消できるようにした。
- (b) 財務会計を学習する上で重要となる考え方についての解説動画を用意し、本文の内容をより深く理解できるようにした。
- (c) すべての教科書掲載問題の解答用紙を用意し、学習者がすぐに問題に取り組めるよう工夫した。
- (d) 会社法・会社計算規則・企業会計原則・企業会計原則注解の全文を参照できるようにし、学習者が法令等の根拠をもとに学習できるよう工夫した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規	(1) 財務会計の概要 ア 企業会計と財務会計 の意義・役割 イ 財務諸表の構成要素 ウ 会計法規と会計基準	9～28頁	3 3
第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価 第5章 流動資産（PART1）当座 資産 第6章 流動資産（PART2）棚卸 資産・その他の流動資産 第7章 固定資産（PART1）有形 固定資産 第8章 固定資産（PART2）無形 固定資産 第9章 固定資産（PART3）投資 その他の資産 第10章 負債の意味と分類	(2) 会計処理 ア 資産と負債 イ 純資産 (3) 財務諸表の作成 ア 資産・負債・純資産 に関する財務諸表	29～154頁	1 2 6 6 6 4 4 1

第11章 流動負債			3
第12章 固定負債			4
第13章 純資産の意味と分類			1
第14章 資本金			2
第15章 資本剰余金			3
第16章 利益剰余金			4
第17章 自己株式			2
第18章 新株予約権			2
第19章 貸借対照表の作成			4
総合問題 (第2編)			1
第3編 損益計算書	(2) 会計処理	155～198頁	
第20章 損益計算書のあらまし	ウ 収益と費用		1
第21章 損益計算の意味と基準	エ 税		2
第22章 売上高	(3) 財務諸表の作成		3
第23章 売上原価、販売費及び 一般管理費	ア 資産・負債・純資産 に関する財務諸表		2
第24章 営業外収益・営業外費用	イ 収益・費用に関する 財務諸表		2
第25章 特別利益・特別損失			2
第26章 損益計算書の作成			4
第27章 その他の財務諸表			2
総合問題 (第3編)			1
第4編 その他の会計処理	(2) 会計処理	199～222頁	
第28章 役務収益・役務原価	ウ 収益と費用		2
第29章 外貨建取引	エ 税		3
第30章 税効果会計			3
総合問題 (第4編)			
第5編 財務諸表の活用	(1) 財務会計の概要	223～248頁	
第31章 財務諸表のディスクロ ージャー	ア 企業会計と財務会計 の意義・役割		1
第32章 財務諸表分析	(4) 財務諸表分析の基礎		3
第33章 連結財務諸表のあらまし	ア 財務諸表分析の意義		3
総合問題 (第5編)	イ 財務諸表分析の方法		1
発展編 連結財務諸表の作成	(4) 財務諸表分析の基礎	249～270頁	
第34章 連結財務諸表の作成	イ 財務諸表分析の方法 ※上記の発展的内容		
総合演習 I	上記(1)～(4)	271～275頁	2
総合演習 II			2
ADVANCE	(1) 財務会計の概要 (2) 会計処理 (4) 財務諸表分析の基礎	276～282頁	4
		計	105

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-115	高等学校	商業	財務会計Ⅰ	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
7実教	商業 007-911	新財務会計Ⅰ 新訂版		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
249 ~ 270	発展編 第34章 連結財務諸表の作成	1	内容－「財務会計Ⅱ」(4) 企業集団の会計 ウ 連結財務諸表の作成について、基礎的な部分のみを取り扱う。	22
合計				22

- (備考)
- ・ 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容…… 1
 - ・ 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容…… 2